



おおくす



自分で考え、動くことができる子 自他共に大切にできる子

校長 野田 恵美

本校の令和4年度グランドデザイン(裏面参照)の「特色ある活動」には「伝統に学ぶ」「仲間に学ぶ」の2つの大きな柱となる活動があります。

その中の「仲間に学ぶ」という活動では、1年生から6年生の縦割り班の活動が「なかよしタイム」として年間を通して計画されています。教室移動や低学年の迎えも含めて、15分程度の交流ですが、子供たちは回を重ねるごとに、互いに会うのが楽しみになっているようです。主に6年生が活動の計画を立てます。遊びだけではなく、読書週間には、縦割り班で本の紹介や読み聞かせをすることもあります。学年末が近付くと、リーダーだった6年生が5年生に活動を引き継ぐために、立案や準備を一緒に行う場も設けられており、自然に次の学年につないでいけるようになっていきます。

また、「仲間に学ぶ」の活動の中には、ペア学年で行く春の遠足もあります。コロナ禍でも下学年の子が楽しめるようにと、ソーシャルディスタンスをとれる遊びを選んだり、ルールを変えて下学年の子が分かりやすいようにしたりと、一生懸命に工夫を凝らしていました。制限のある中でも、子供たちは今できることは何かを考え、実行しています。

また、今年度のグランドデザインで昨年と変えた部分があります。中央部分の右端「健やかな心と体」の2つ目「元気に過ごすために考え、判断し、行動できる子を育てる」の項目です。文字数の制限もあり、書けませんでした。ここでは、自分のことも他の人のことも知り、みんなが心も体も元気に過ごすためにはどうしたらよいかを考え、小さなことでもよいので、それを行動にうつせる子になってほしい、という思いを込めました。

マスクをつけた生活や集団で行う活動に制限のある生活が数年続いています。子供たちの中には、自分の気持ちや体の状態を伝える場面で、遠慮や躊躇をしてしまう子が増えているように思います。人間関係でも関わり合いが不足し、互いに気持ちを伝えられないまま、思いがすれ違ってしまい、うまくいかないこともあるのではないのでしょうか。学年の発達段階に応じた指導と支援を通して、自分の心身の状態を知り、自分も他の人も大切に思う気持ちを育て、互いに笑顔で過ごせるよう考える子の育成に努めます。



渋川の子供たちがもっているよさを踏まえながら、私たち教職員自身も常に考え、改善を図りながら指導や支援を行っていかなくてはならないと考えています。そのためには、これからもご家庭や地域の皆様とも力を合わせていくことが大切です。引き続き、お力添えをいただけますようどうぞよろしくお願いいたします。